

## 令和3年度第3回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

日時：令和4年2月18日（金）午後6時30分から午後9時00分まで

場所：守山市民交流センター 1階 交流室

委員：

No	委員区分	団体名等	氏名	備考
1	1号委員	市民（自治会）	石田 俊治	
2	1号委員	守山商工会議所	葭本 勝利	
3	1号委員	市民（自治会、市民活動）	金野 弘子	
4	1号委員	市民（市民活動）	根木山 恒平	
5	1号委員	市民（民生委員）	西井 泉	
6	1号委員	市民（生涯学習、青年活動）	松井 里美	
7	1号委員	市民（市民活動）	遠藤 由隆	
8	2号委員	龍谷大学政策学部教授	只友 景士（委員長）	座長
9	2号委員	しがNPOセンター理事	西川 実佐子（副委員長）	
10	3号委員	市民（公募）	宮川 美紀子	
11	3号委員	市民（公募）	菅井 隆雄	

発言者	会議内容（要旨）
根木山委員	<p><b>議題(1) 令和3年度の市民参画事業にかかる進捗状況について（報告）</b></p> <p><b>1 市民懇談会等の取組みについて</b></p> <p><b>2 市民提案型まちづくり支援事業の実施</b></p> <p><b>3 ファシリテーター養成講座（養成編・フォローアップ編）の開催</b></p> <p><b>4 「市民参加と協働のまちづくりフォーラム」の開催</b></p> <p><b>5 「もり・まっち」別冊「市民活動団体マッチングリスト」の発行について</b></p> <p>11月3日の環境基本計画の中間見直しに係る市民懇談会を見に行った。無作為抽出で選ばれた方々が参加し、話し合っている姿を見られてよかった。もりやま未来ミーティングの一般応募が40名もいて素晴らしいと思う。その募集方法および見学可能か教えていただきたい。また、市職員向けのファシリテーター講座を開催するとのことであるが、市職員としていろいろな話し合いの場に出ていく際の対話術等はあるのか。</p>
事務局	<p>もりやま未来ミーティングは18～39歳の方を対象に無作為抽出で案内をした。コロナ禍で応募は少ないと想定していたが、定員を上回る応募があり、事務局としても驚いているとともに、嬉しく思っている。</p> <p>しかしながら、このような状況下で開催するため、10月3日（都市計画）に各会館で分散開催した市民懇談会の仕組みを活用し、市民交流センター各部屋に分</p>

	<p>散して開催する予定。</p> <p>見学については、現状に鑑み、市広報等で周知は行っていないが、委員の皆様については、希望があればぜひ見学いただければと考えている。</p> <p>また、職員のファシリテーター技術について、特に決まった対話術等マニュアルのようなものはないが、市職員は、前市長から現在の市長にも、現場に出向いて現場を知って対応するように指示され、そのように心がけている。最近では各地区会館にも若手の職員を配置しており、それがコミュニケーション力の向上に繋がっているのではないかと考えている。</p>
只友委員長	<p>対話術等については、市民との話し合いや先輩からの指導で培われてきたが、今あえてファシリテーション講座を受けるのは、新しい技量として身につけられていると思う。</p> <p>市民の方に対して、丁寧に説明するだけでなく、市民のやる気を引き出したり、協力してやっていく力が求められていると感じる。</p>
宮川委員	<p>「これからの協働のまちづくり職員勉強会」はどのような内容を話し合っているのか。</p>
事務局	<p>市民協働に関心がある職員が本来業務の垣根を越えて、自発的に参加している。1月は市民懇談会の練習のような形式で話し合いを行い、これを参考にもりやま未来ミーティングの話し合いのステップを決めた。もりやま未来ミーティング当日も、ファシリテーターではなく、市民と同じ立場で参加する予定。</p>
宮川委員	<p>若い職員が興味を持って、自主的に参加しているのが非常にいいと思った。そういう人たちがまちを盛り上げてくれる力になるのではないかと期待している。</p>
菅井委員	<p>11月3日の環境基本計画の中間見直しに係る市民懇談会と市民向けファシリテーター養成講座に参加した。参加者は皆さん楽しんでおられて、非常に良い雰囲気盛りが上がっていた。また、市民懇談会に参加してファシリテーターに興味を持たれた方が養成講座を受講されていて、それぞれ繋がっていているのがいいなと思った。</p> <p>講座の良い点としては、話し合いにトラブルが見受けられなかったこと。</p> <p>また、環境の分野で話し合いを行ったが、市民懇談会の参加者が、話し合った内容をすぐに実践する場があればさらに良くなると思う。</p>
只友委員長	<p>すぐに実践できる場を作ることは大事。他部署と連携して年間の事業計画を作ることが有効だと考える。</p>

	<p>また、職員勉強会は参加して楽しかったというだけでも値打ちがあり、さらに上司や同僚以外と繋がりを持てる機会があることが良い。</p> <p>また、一つのテーマであっても、部署によっては立場が異なるため様々な意見が出てくるため政策の深みが増すと考えられる。市民の生活向上やまちづくりをどのように進めていくかについて話し合いを行っていただければ、市民との対話の幅が広がるのではないかと思う。</p> <p><b>6 「住みやすさ指標」市民アンケートの実施</b></p>
石田委員	<p>住みやすさ指標に関するアンケート調査について、近隣市町で同様のことを行っている市町はあるか。</p>
事務局	<p>全国で幸福度調査が行われており、東京の荒川区が先進的に取り組みを行っているが、県内で実施されている自治体は把握していない。</p>
石田委員	<p>守山市が住みやすいと感じる人が7割を超えていることには、個人的にも同意できるが、他の地域でも調査があれば、比較し、守山市の良い点と改善点を見いだせればと思う。</p> <p>また、防災意識に対する評価が低い。玉津学区では学区の防災訓練をやっているが、実は石田町のみシナリオのない防災訓練をやっている。消防署員に協力いただく中、日時と場所の指定だけで、集まった市民と訓練を行っている。いざやってみると、自分が何をしたらいいかということを手で考えて、初期初動を行えるようになる。</p>
事務局	<p>他地域との比較について当初検討していたが、「ホテルの住む地域に愛着がありますか」という質問など、守山市の特性を含む質問もあり、比較が難しい。しかし、アンケート調査を行うことで、職員が市民と同じ視点を持つきっかけになると考えている。</p> <p>玉津学区で熱心に防災に取り組んでいただいていること感謝している。吉身学区でも地区防災計画に取り組んでいただいている等、他学区でも防災を意識して取り組んでいただいている。</p>
石田委員	<p>「居住の意思」が8割を超えていて、この結果を見て改めて守山市の良さを実感した。石田町の新入住民が挨拶に来られたとき、石田町を選んだ理由を聞いてみると、川が流れ、魚が泳ぎ、鳥が飛んでいる田園風景が広がる景色があるからとのこと。農と住のバランスの取れた自然環境の良さを小さな子どもがいる若い世代も感じているということを生々の声でも聞いている。</p>

只友委員長	<p>守山市民は、都市と地方の調和の良さを好んで住んでいるというのを感じる。幸福度調査は全国の自治体がやっている訳ではなく、また、調査方法も異なるため、一概に比較できない。これまでは、まちが豊かになれば幸せになると考えていたが、そうではないということが分かってきて、この調査を実施することで市民の方が考えている勘所が分かればいいなと考える。</p> <p>また、この調査がなかなか全国各地でも普及しないのは、施策への反映が難しいためではないかと考える。</p>
菅井委員	アンケート結果は市民が見ることができるのか。
事務局	議会での報告を経て、整い次第、市HPへ掲載させていただく予定。
只友委員長	<p>このような行政資料をどのように保存して、市民が普通に活用するにはどうすればよいかを考える必要がある。例えば図書館で登録されると、全国で検索可能になり、他地域が閲覧することもあるだろう。</p>
事務局	<p>図書館にも提供したいと考えており、併せて公文書館にも配置し、広く市民の皆さんに見ていただける機会を提供したいと考えている。</p>
石田委員	<p>アンケート結果については、要約版を作成するなどして、自治会回覧を行うことについても対応いただきたい。全てではなくても、市民に結果を報告する機会を提供することが大切ではないか。</p>
事務局	<p>全庁的に統一した対応が必要だと思うので、当課単独で対応することは難しい。方法については、検討させていただきたい。</p>
只友委員長	<p>市広報等で結果を公表していることについて案内するだけでもいいのではないか。</p>
西井委員	<p>石田委員と同じく、居住の意思について肯定的回答が多く、嬉しく思う。肯定的回答の低い部分についても出していただき、今後の改善を期待したい。</p>
金野委員	<p>主観評価の幸せ感が下がっていることについて、個人的にもコロナ禍で計画した事業が中止を余儀なくされる状況が続いており、その通りだと思う。どのような施策になるかはわからないが、結果については今後の施策にぜひ活かしてほしい。</p>
事務局	自由記述を見ていると、コロナの影響で評価を下げたという意見が見られた。

	生活様式が変わっているため、それに対応した施策をしっかりと行っていきたい。
遠藤委員	住みやすさ指標に係るアンケートは、PDCA サイクルのチェックの一種ではないかと感じている。アンケート内容は、総合計画のようだが、市民協働課としてどうしていくか、ということも含め、チェックの段階として、公表した方がいいのではないか。委員の皆さんはどう思われるか。
只友委員長	PDCA サイクルは企業の売り上げ等には当てはまるが、行政施策や幸福度調査に当てはめるのは難しい。単なるチェックだけではなく、考察をしないといけないためである。しかし、幸福度が低い人が評価を下げているポイントを調べることができるになれば、広報で大々的に調査結果として公開できる代物になるかもしれないが。
遠藤委員	幸福は、それぞれ人によって違う。それよりむしろ、不幸と感じる生きづらい人などに焦点をあてて、それらがなくなるよう活用することが良いのではないか。課題を発見していかないと意味がない。
只友委員長	確かにチェックは必要。評価項目と属性の関係性などから見えてくることがあるだろう。経済成長時期はまちが豊かになれば住民も幸福になると考えられていたが、結局お金だけでは幸福度を測ることができない。どうすれば幸福実感度を上げることができるか検討すれば、政策に深みが出てくるだろう。先ほどのまちづくり職員勉強会のテーマにしてもいいかもしれない。
	<b>7 守山市民交流センター「さんさん守山」について</b>
	特に意見なし
	<b>議題(2) 令和4年度の市民参画事業の取組み方針について</b>
菅井委員	市民活動フェスタの前身のイベントは、いつ頃から始められたイベントなのか。
金野委員	屋台村が15年前ぐらいだったと思う。今年から一体化されたと理解している。
菅井委員	大多数の市民がそうだと思うが、私はこの会議で聞くまでこのようなイベントの存在を知らなかったが、実際に見に行くと、感心した。参加者の方々は、みな楽しそうだった。団体の成果や活動をPRする場であるとも聞いているので、参加者の多少は関係ないかもしれないが、せっかくなので多くの方に見ていただきたい。

事務局	<p>昨年度まで、交流センターの1階にある市民活動スペースで活動されている団体を中心に「市民活動屋台村」を運営し、主に2階を使用していた文化団体を中心に「さんさん守山文化祭」を運営していた。指定管理者が運営していた頃は週を分けて開催していたが、今回は団体の繋がりを重視し、一体化して開催したものの。</p> <p>例年は駐車場で飲食を出していたが、今回はコロナ禍で断念したことも要因して来場者の呼び込みが難しかったものの、予想していたよりは参加者数が多かったと考えている。来年度は改善を図るなか、継続していきたい。</p>
金野委員	<p>市民活動フェスタを開催してもらえてよかった。マッチングリストを見て、様々な繋がりを築き、横の繋がりが広がり、最終的に中間支援という形の運営が起こればと思う。様々な市民団体が掲載されていて、これからも2冊目や3冊目を作り、広げていってほしい。</p>
松井委員	<p>もりやま青年団も人材不足で、後継者を見つけるのが難しい状況。県内の青年団と話し合っていると、皆繋がりを求めていることが分かり、青年団の中だけでなく、外に出て行かなければいけないと考えている。市民参画の事業を見ると、私自身どれにも興味があるため、青年団としてもどんどん外に出ていきたいと考えている。</p>
只友委員長	<p>青年団と色々な接点を持って、活動を広げていってもらえるといいのでは。</p>
西川委員	<p>ふるさと納税を活用した支援について、もう少し詳しく知りたい。市民活動団体が支援を使う意味や目的についての説明と、全国の人へのPRの仕方をどのように考えているか、説明してほしい。</p>
事務局	<p>これまでも1%支援制度等について検討をしてきた中、今年度のふるさと納税制度について、学校を指定して寄付できるようにしたことなどにより、寄付額が増額している。同じく、市民活動への支援についても、寄付をしたい方が団体を選べることであればと考えている。</p> <p>具体的な流れとしては、まず支援を受けたい団体から申請を受け付け、市民提案型まちづくり支援事業と同様、審査を行い、審査が通れば団体を認定する。その後、認定団体が外へ向けてPRを行い、寄付を募っていただく。最後に確定した寄付金額をもって、団体へ交付することとなるため、実際に事業を進めていただくのは1年遅れになってしまうが、これまで市民提案型まちづくり支援事業の中でできていなかった、市民へのPRという部分について、この制度を活用することで補うことが出来るのではないかと考えている。</p>
只友委員長	<p>市民活動団体が個人的に活動するより、市に認定してもらった方がやりやすくなる経験をしてもらえるし、自分たちの活動を寄付に繋げるために、どのようにPRに繋</p>

	<p>げればよいか課題を洗い出すことができる。</p> <p>団体自身が広く共感を持ってもらえるように発信し、語っていくことを大事にしていかないといけない。また、1%支援制度を提案した時と何が違うのかということについては、考えておかないといけない。</p> <p>本来これは、どのような形がよかったのか、最初のはじめは1%支援制度から始まったから。ちなみに今回は返礼品があるのか。</p>
事務局	<p>市内に住んでいる寄付者には返礼品がない。</p>
西川副委員長	<p>市民活動団体に、あなたたちの活動の様子をどのように伝えていくか、というサポートは、市民協働課にぜひ担っていただき、方法を検討していただきたい。ふるさと納税が終わった後は、自分たちで寄付を集めて活動できるくらいに成長することを望んでいると思うので、それを浸透できるように検討していただきたい。</p>
宮川委員	<p>制度について質問。市民提案型まちづくり支援事業の助成金は認定された団体が最後に実績報告を提出して助成金を受けることになると思うが、このふるさと納税を活用した制度はどのような仕組みとなるのか。</p>
事務局	<p>従来の市民提案型まちづくり支援事業同様、審査をして認められた団体のみが対象となる。</p>
宮川委員	<p>活動報告の場はどうか。寄付を受けた団体は、団体のHP等のみで報告を行うのか、市民協働課や企画政策課に対して報告書の提出を行うのか。発表の場があればよいと思う。</p>
事務局	<p>今後企画政策課と協議の上で詳細を決めていかなければならないが、市民や寄付された方に市民活動団体の事業内容が伝わるようにフィードバックを行わなければならないと考えている。</p>
只友委員長	<p>成果発表の仕方を上手に見せてあげることで、自分たちの活動をPRするよい機会になるため、市として支援方法を検討すること。</p>
根木山委員	<p>中間支援について、庁内で具体的にイメージしているものがあれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>この1年、交流センターの実情を知るだけで手一杯で、現状ご報告できる成果がない。令和4年度は、“団体を応援したい”団体を募って、守山の市民活動団体の実態にあった支援を行えるよう考えていきたい。</p>

石田委員	学区市民懇談会について、現在は守山学区で先進的に開催されているとのことだが、令和4年度から、他の残り全6学区について開催していくという考えか。
事務局	守山学区については、まるごと活性化のプランの中で転出・転入の多さによるまちの課題が挙げられており、「担い手プロジェクト」の中で開催してきたものである。ほかの学区でもぜひ取り組んでいただきたいと思う反面、予算や時間の都合で一度に全学区で開催するのは困難だという考えもある。学区の意向を伺いつつ、1学区ずつでもよいので、広げていきたい。
石田委員	令和4年度に〇〇学区へ依頼する、など計画を立てているわけではないのか。 また、各学区長はこの市民懇談会の内容を知っているのか。
事務局	地域課題の解決のためにこの市民懇談会の手法が有効だとお考えの学区に開催いただきたいため、市民協働課から開催を依頼したところで、課題やテーマが決まらなければ意味がない。 まずどういう制度か知っていただくことが大切だと思うため、機会があるときに啓発を兼ねて説明していきたいと思う。
只友委員長	学区長の集まりのなかで、半日研修の時間をもらって、話し合いの楽しさを経験してもらえるといいかもしれない。
西川副委員長	これを自分の学区でやりたいと思えるきっかけ、気づきがないと、自分の学区でやろうとは思わないだろうから、話し合いを体験してもらうのは良いと思う。
只友委員長	守山学区の様子を動画で撮影したものを流したり、見学してもらうのはどうか。 参加者が生き生きとまちのことを話し合う様子をぜひ見ていただきたい。 びわこ放送の取材で市民懇談会の動画を編集してもらっているので、令和4年度は守山学区の様子を取材してもらってはどうか。 また、計画的に開催していくには、市民、職員のファシリテーターを一定確保していくことが大切。
葭本委員	自治会を所管している担当課としてはどう考えているのか。
事務局	実は、自治会を所管している部署と協働推進が合体し、市民協働課として両方に取り組んでいるため、手法としては進めていきやすい。
石田委員	玉津学区としても、次の担い手不足に直面しているため、市民懇談会等を通じてまちに興味を持ってもらい、地域の人と知り合い、担い手を増やしていきたいと考えて

<p>只友委員長</p>	<p>いる。</p> <p>担い手不足の解決にも繋がるし、裾野を広げるための事業について考えていく必要がある。</p>
<p>葭本委員</p>	<p>令和4年度の方針の中で、今年度の市民懇談会の参加者が多く、満足度も高いことが書かれており、当初描いていた期待通りに行われていて、大変嬉しい。また、市民懇談会が市内において有効な市民参画の手法として認知されてきていることを実感でき、職員間でまちづくり勉強会が開催されていることが評価される。</p> <p>当初、只友委員長がまちのカフェで気軽に話し合えるイメージが市民懇談会だと仰っていたのを思い出し、職員がそのようなことをしていることを嬉しく思う。ぜひその輪が自然と広がっていくことを期待し、職員の上司がそれを認識していることも良い。</p> <p>もりやま未来ミーティングに青年団が参加してはどうか、という話があったが、市民協働課が後援を行うか、あるいは商工会議所等が資金援助を行うなど、開催することについて検討していただきたい。</p> <p>住みやすさ指標について、私の経験でいうと、家族が要介護になった時、退院後の流れ等について地域連携が非常に緊密であり、大変助かった。「どちらともいえない」という回答について、「わからない」なのか、どちらでもないから「普通」なのか、実際に関わっている人々がどう感じているのかをもう少し詰めていければより良いのでは。実際に関わっている側からすると、守山市は大変良いのではと考えている。</p> <p>治安・防犯について、先日警察から聞いた話からしても、市民が感じていることと実態には乖離があると感じているため、こういったアンケートを通じて市民が実態を知るいい機会になるのではないかと思う。</p>
<p>根木山委員</p>	<p>中学校、高校の部活動がパンクしている。先生のプライベートが確保できないということが問題化している。スポーツ文化活動や若者が地域に入っていくことについて、市民活動団体がベースになりながら、将来像して目指せるといいだろうと感じる。</p> <p>中高生サミットについて、中高生が地域を学ぶ機会がないという提言があり、そういう機会を作ってほしいと提言していた。部活動の変革によって、地域活動に関わりを持つきっかけに繋がればよいと思う。</p>
<p>只友委員長</p>	<p>昔から地域のリーダーを養成していたのは青年団。自分のふるさとのことを考えていたら、国会議員にまでなった人もいる。昔は地域の活動から多様なリーダーが生まれていた。市民懇談会を定着させることが出来た今、守山は話し合いを基盤にまちづくりが広がっていけば。</p> <p style="text-align: right;">(了)</p>